



ニッポン  
ドクター和の

臨終図巻



大阪・難波にある「なんばグラ  
ンド花月」に吉本新喜劇をときど  
き観に行きます。漫才、落語、コ  
ント、お芝居…大阪らしさが満載  
のコテコテのお笑い、お好み定  
食のように楽しめる。ああ、ここ  
に来ればいつでも日常のストレス  
を忘れてシアワセになれる。関西  
に生まれてよかったナ、と思える  
ひとときです。

この人の舞台も、何度か見てき  
ました。吉本新喜劇の女形「和子  
ばあちゃん」としてときには「垂  
れ乳」も披露。誰からも愛されて  
きた吉本新喜劇最古参のタレン  
ト、桑原和男さんが8月10日に神  
戸市内の病院で亡くなりました。  
享年87。死因は、老衰との発表で  
す。

明石家さんまさん、間寛平さ  
ん、池乃めだかさんなど、吉本の  
大御所芸人が次々と追悼のコメン  
トを発表。1980年代、低迷期

318 タレント 桑原和男



長尾和宏（ながお・か  
ずひろ）医学博士。公益  
財団法人日本尊厳死協会  
副理事長としてリビング  
・ウィルの啓発を行う。映  
画『痛くない死に方』をは  
じめ出版や配信などさま  
まなメディアで長年の町  
医者経験を活かした医療  
情報を発信する傍ら、と  
きどき音楽ライブも。

の吉本新喜劇を支え人気を復活さ  
せた立役者ということで、あらた  
めてこの人の偉大さを知りまし  
た。

桑原さんは2000年7月、64  
歳のときに急性心筋梗塞を発生し  
て入院しています。今の僕と同じ  
ぐらいの年齢…他人事ではありま  
せん。

急性心筋梗塞は、心筋を養う血  
管である冠動脈が詰まることで起  
こる病気です。ある日突然、締め  
付けられるような強い胸の痛み  
に襲われます。冷や汗や呼吸困難、  
吐き気を伴うこともあります。  
当連載でも何度も書いています  
が、上記のような症状が現れたな  
ら一刻も早く救急車を呼んでくだ  
さい。早期に治療を開始できるか  
否かが生死の境を分けます。発症  
から6時間以内に治療開始するこ  
とができれば、約9割の命が助か  
るといふ調査結果もあります。

また、救急車が到着するまでの  
間、周囲の人の初期対応があった

か否かでも、大きく運命が分か  
れます。心室細動（1分間に300  
回以上、心室が不規則に震える状  
態）や心停止が起きて意識を失っ  
ている状態でも、周囲の人がAED  
（自動体外式除細動器）を使用  
することで命を助けられるケース  
はいくらでもあります。

しかし未だAEDを触ったこと  
が一度もない、という人が大半で  
す。職場や自治体などでもっと講  
習の機会を増やしてほしい  
と願います。

桑原さんは幸いなことに、急性  
心筋梗塞から半年近くの休養の  
後、見事に復活しました。きっと  
初期対応が良かったのでしょうか。  
再発を防ぐため、食事や運動など  
生活習慣の改善にも努力したと思  
われます。60代で急性心筋梗塞を  
発症した人が、その後20年以上も  
生きられて老衰で旅立ったのは、  
素晴らしい結末です。

「ごめんください、どなたです  
か…お入りください、ありがと  
う」。今頃、そんなやりとりをし  
て天国の扉を開けたところでは  
しょう。

素晴らししい人生の結末